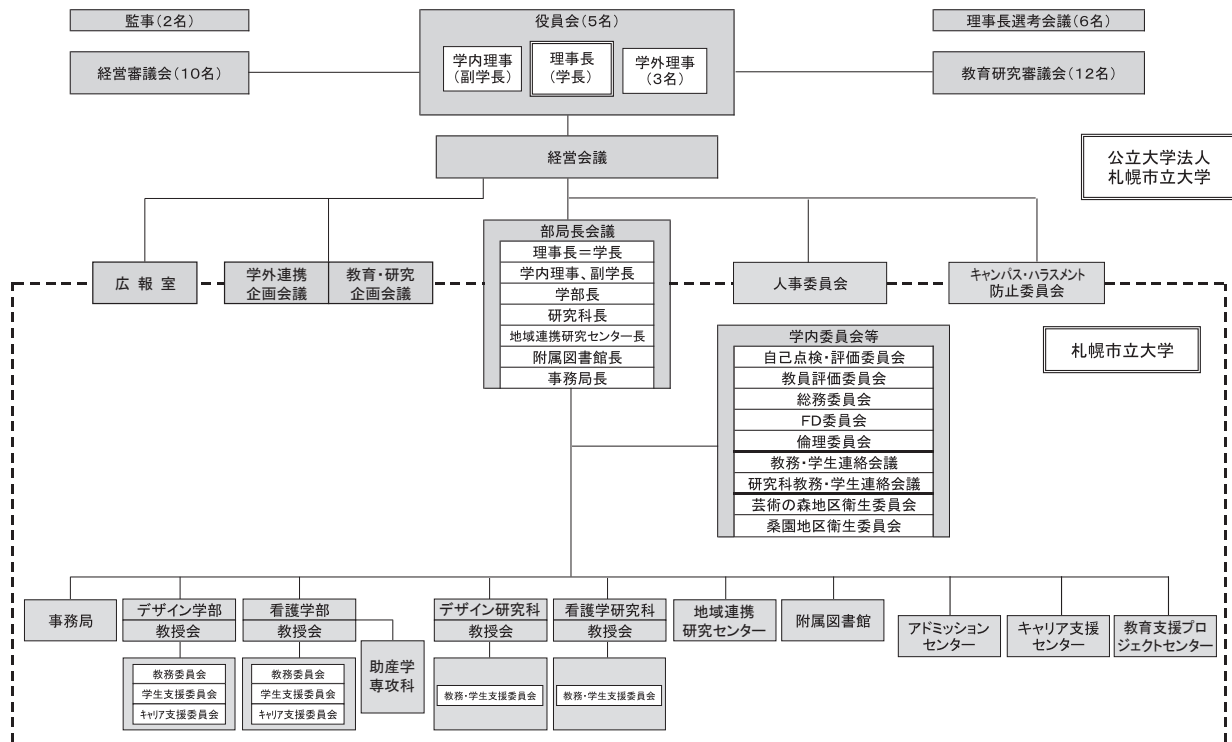




Ⅸ 学内運営の概要

1 平成27(2015)年度公立大学法人札幌市立大学組織図



2 経営会議

平成27年度は13回の会議を開催した。

会議では、法人の経営及び札幌市立大学の教育研究に関する重要事項について協議を行った。

3 部局長会議

回数	開催日	議題
第1回	4月8日	(1)2015年度学内委員会について (2)平成27年度大学ポートレート参加意向確認について (3)デザイン研究科 博士前期課程 私費外国人留学生特別選抜に係る出願資格の変更について
第2回	5月8日	(1)平成29年度以降のデザイン学部一般選抜(後期日程)入学者選抜試験の変更について (2)外部監査報告に係る指摘事項に対する措置について
第3回	5月22日	外部監査報告に係る指摘事項に対する措置について
第4回	6月3日	(1)看護学研究科倫理審査会規程の改正について (2)平成26年度決算について (3)大学基準協会へ提出する改善報告書(案)について (4)平成27年度前期 授業料減額免除について (5)平成26年度年度計画の実績報告にかかる点検結果について
第5回	7月1日	研究倫理関連規程の改定について



回数	開催日	議題
第6回	7月16日	札幌市地方独立行政法人評価委員会によるヒアリングへの対応について
第7回	8月20日	法人評価結果案について
第8回	9月2日	なし
第9回	10月7日	(1)研究倫理関連手続について (2)図書館の予算について
第10回	11月4日	研究倫理関連手続について
第11回	12月2日	(1)(新)危機管理基本マニュアル(案)等について (2)平成28年度入学式及び卒・修了式の日程について (3)平成27年度後期 授業料減額免除について (4)リース期間満了に伴う次期図書館業務システムの導入及び旧システムからのデータ移行業務の委託について
第12回	1月6日	(1)会計関係規則の改正について (2)平成28年度年度計画の策定スケジュールについて (3)利益相反管理規程等の策定について (4)平成28年度卒業式・修了式スケジュールについて (5)平成28年度予算と収支不足対応について
第13回	2月3日	(1)芸術の森地区連合会と公立大学法人札幌市立大学との地域連携協定の締結について (2)知的財産規程及び細則の改正について (3)看護学研究科倫理審査会規程の改正について (4)重篤有害事象発生手順書の制定(看護学研究科の学生向け)について (5)公立大学法人札幌市立大学利益相反指針等関連規程類の策定について (6)サバティカル研修について (7)修学支援基金(開学10周年記念基金)について
第14回	2月15日	平成28年度年度計画(案)について
第15回	2月24日	平成28年度年度計画(案)について
第16回	3月2日	(1)2016年度札幌市立大学学内委員会等について (2)平成28年度主要会議予定表について (3)規則等の改正について (4)「KANAえる基金」について
第17回	3月18日	規則等改正について

4 教育・研究企画会議

教育・研究企画会議は、第二期経営戦略の3つの基本戦略のうち、「学内体制を充実・強化する戦略」を所管し、平成27年度は9回開催した。

平成27年度の主な活動として、サバティカル研修の制度設計を行ったほか、ループリックの試行状況の検証やCITI Japanプロジェクトへの参加について協議を行った。

5 広報室

広報室は、主に広報戦略の推進に関する事項等を所管しており、平成27年度は11回開催した。

平成27年度の主な活動として、2016年度版大学案内を21,000部発行し、2017年度版大学案内の検討・制作を行った。また、公式大学ウェブサイトを全面的にリニューアルし、スマートフォンによる閲覧をやすくしたほか、YouTubeを活用した動画「SCU-TV」を新たに制作するなど、大学の魅力がより伝わるサイトとした。



6 教授会

1) デザイン学部教授会

デザイン学部教授会は、平成27年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

2) 看護学部教授会

看護学部教授会は、平成27年度に臨時教授会1回を含む13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、進級卒業判定及びその他学部の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、助産学専攻科における教育課程の編成、修了判定及びその他専攻科の教育研究に関する事項などについても本教授会において、幅広く審議を行った。

教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

3) デザイン研究科教授会

デザイン研究科教授会は、平成27年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他研究科の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、デザイン研究科博士後期課程に関する事項について審議するため、博士後期課程会議（研究科教授会代議員会）を開催した。

4) 看護学研究科教授会

看護学研究科教授会は、平成27年度に臨時教授会1回を含む13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、修了判定及びその他研究科の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、各学内委員会等からの報告も行い、必要に応じて看護学研究科科目担当専任教員を構成員とする拡大会議として開催した。

7 地域連携研究センター

地域・産学連携部門、人材育成・継続教育部門、国際交流部門、紀要編集委員会の4セクションに構成員を配置して、研究活動、地域貢献および国内外ネットワーク形成の推進を担い、活動を行った。また、運営会議（計11回開催）で課題や情報を集約したほか、知的財産委員会を構成し、学内の知的財産に係わる管理・運営を行った。主な活動内容は以下のとおりである。

<地域・産学連携>

地域からの協力要請に対して、本学教員・学生が本来の活動の延長上で教育・研究の成果を地域に還元するため、地域連携活動の協力を行った。また、教員の研究成果を学外に周知し産官学連携のきっかけを探るために、「ビジネスEXPO」等の展示会へ出展したほか、産官学連携を目的とした学外向けの産学官研究交流会の開催や、北海道立総合研究機構との視察研究交流会を開催し、更なるネットワークづくりを図った。

<人材育成・継続教育>

大学が持つ知的資源をデザイン・看護の視点に基づき地域に還元し、地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献をすることを目的として、公開講座を開催した。専門職業人や市民を対象とした28コース（54コマ）【うちCOC関連21コース（36コマ）】の講座を、延べ1706名が受講した。また、ちえりあとの連携講座として6コマ86名の受講、今年度初の企画として、北海道立総合研究機構との共催講座「知活ゼミナール」を開催し2コマ29名が受講した。

平成27年度から公開講座を、体系的に整理することにより、全体の傾向を把握し、且つ、今後の公開講座の企画運営において、大学が保有する知的資源を有効に活用することを目的として、受講希望者及び企画運営における2つの視点から、公開講座の体系を大項目として「一般市民向け」「専門



職向け」を、中項目として「デザイン分野」「看護分野」「学際分野」を設けている。大項目・中項目に加え、小項目に「4コース9領域」と「共通教育」を加えることにより、分野別に講座の実施状況を把握し、企画運営を行った。

<国際交流>

国際化に関する基本方針および行動計画に基づき、4つの戦略を下記の通り、引き続き推進した。

・「学生の国際化」

本学、学生交流については、華梵大学と台中科技大学との合同企画として、デザイン学部生が主体的にワークショップに参加し交流を行った。看護学部生が承德医学院での短期派遣プログラムに参加した。デザイン学部生が清華大学主催のワークショップに参加した。また、華梵大学へ特別交換留学生として半年間留学をした。華梵大学からの特別聴講学生の受入も行っている。このことに加え、フィンランドとの交流を活発にしていることに伴い、1ヵ月半のインターンシップへデザイン学部生と看護学部生が参加した。さらに、ラップランドで開催したArctic Design Weekに本学学生がサンタワークショップで制作した作品展示をした。

・「教職員の国際化」

学術奨励研究において、教員の国際学会・国際展示会への発表を促すための補助制度を継続し、国際学会誌に発表した際の補助制度を推奨している。

・「提携校との交流の活性化」

国立台中科技大学と学術交流協定締結に向けて覚書を交わした。ラップランド大学と学術交流協定を締結した。共同研究の打ち合わせのため相互に交流を進めている。また、ラップランド大学で開催されたArctic Design Weekの大学展示に参加のため教員の派遣を行った。さらに、清華大学美術学院技術学部長を受入し研究交流を行った。また、本学教員を研究交流・授業視察・特別講演のため派遣した。

・「海外とのネットワーク化」

ポートランド（アメリカ、オレゴン州）のパシフィック・ノースウェスト・カレッジ・オブ・アート（PNCA）へ今後の交流の可能性を検討するために教員の派遣を行った。

また、JICAベトナム研究員（ITフロント）の本学視察の受入を行った。

<紀要編集>

前年度に発行準備をしていた研究論文集「SCU Journal of Design & Nursing 第9巻」を平成27年6月末に発行した。また、第10巻を平成28年6月末に発行することとし、投稿論文について査読を行い、発行の準備をした。

<研究推進>

地域や産業界から依頼された受託研究11件、共同研究1件、寄附金12件の受入れを行い、次年度の学内競争的研究費（学術奨励研究費・共同研究費・田村ICT基金）の公募と審査に係わる制度設計を行い、学術論文掲載料等補助の制度を改善した。また、両学部の教員の交流を図るため研究交流会を、産学官連携のシーズ創出を図るため産学官連携研究交流会を企画・実施した。

<知的財産>

「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業：（工業所有権情報・研修館主催）における広域大学知的財産ネットワーク」（①デザイン利活用による地域貢献ネットワーク②看工連携によるものづくりプロジェクト創出ネットワーク）に参加した。当該事業から派遣される大学知的財産アドバイザーによる知的財産セミナー（知的財産出前セミナー2件含む）をFDとして開催した。また、特許申請中の案件について、外部企業と専用実施権契約を締結し、製品化に向けた検討を開始した。

8 附属図書館

平成27年度は全11回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。主な協議内容は、図書館利用の活性化、図書館利用者アンケートの実施、図書館予算の考え方、後援会



からの寄附、データベース・電子ジャーナルの契約方針、購読雑誌の契約検討、修士論文の機関リポジトリの掲載ルール、新webサイトの掲載内容、図書館システム選考、等であった。

この他、北海道地区大学図書館協議会相互利用促進事業運営委員会の委員長館をつとめた。

芸術の森図書館では、札幌芸術の森美術館との連動企画展を開催（9月8日～10月30日）、アートブックフェアへ参加（11月9日～12月5日）した。

9 アドミッションセンター

入学者選抜試験及びそれに伴う入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成27年度は計10回の会議を開催し、前年度の入試結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・選抜試験実施要領に関する審議、入学者選抜試験に係る現状分析を行った。なお、デザイン学部アドミッションポリシーの見直しもおこなった。

また、学生募集に係る具体的な取組として、オープンキャンパス、大学・大学院等説明会、高校訪問及び中学生向け広報活動等を企画・実施した。

10 キャリア支援センター

キャリア支援センター会議は、両学部に関係するキャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置された。両学部のキャリア支援委員会において各学部の特性や特徴及び社会情勢に応じたキャリア支援を行った。

11 教育支援プロジェクトセンター

教育プロジェクトセンターは、地（知）の拠点整備事業（COC）や産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（GP）など、文部科学省の補助事業や公的機関が実施する事業に係わるプロジェクト等を所管しており、平成27年度は4回開催した。

平成27年度の主な活動として、文部科学省の新たな補助事業である地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）への参加について協議を行った。

12 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

自己点検・評価委員会は、主に認証評価や年度計画の進捗管理に関する事項等を所管しており、平成27年度は8回開催した。

平成27年度の主な活動として、平成26年度年度計画の実績報告書（案）の作成を行ったほか、平成27年度年度計画について半期（一部の項目は四半期）ごとに取組状況の進捗管理を行った。

2) 教員評価委員会

平成27年度は3回の委員会のほか、ワーキングや専門部会を開催し、各教員から提出された教員活動実績申告書の確認作業や教員評価書の作成作業を行うとともに、次年度に向けた、記入要領及び申告書様式等の検証や教員評価制度の見直しを行った。

評価結果については、平成27年度末に任期満了を迎える教員の再任審査に活用し、また、研究費の追加配分にも活用した。

3) 総務委員会

平成27年度は9回の委員会を開催した。

委員会では、感染症集団発生時の対応に係る個別マニュアル案を策定し、全教職員へ周知を行っ

た。

なお、昨年に引き続き、夏季及び冬季の節電対策について検討を行い実施した。

4) FD委員会

FD委員会は、教員の資質向上、FDに関する情報の共有化・情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。委員会を8回開催し、FD活動の方針について論議するとともに、具体的な取り組みについて、内容を検討し、実施した。

平成27年度の具体的な活動として、FD委員会が主催・共催の全学FD研修会（3回）、学外研修会への教職員派遣（4回延べ4名）、授業評価アンケート集計結果に対する所見の公開を実施した。

なお、学内で実施されたFD研修会の実施状況については、FDマップを作成することで整理している。また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、北海道内の大学間のFD活動の交流にも関わっている。

5) 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成27年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第4水曜日に委員会を開催した（計12回開催）。また、平成24年度から倫理委員会における審査の前段として、倫理委員が審査資料の確認をし、申請者へコメントを送付することにより、審査時間の短縮と研究倫理審査の申請から研究開始までの迅速化を図っている。年間の審査申請総数は32件であり、1回当たり平均2.7件の審査を実施した。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成23年度から引き続き、法律家を外部委員として委嘱し、吉岡直樹弁護士が委員として審査に加わった。

また、平成26年12月に新たに「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）が告示されたため、この指針をふまえて倫理審査の基準を見直してきた。当指針には、倫理審査委員会の成立要件として構成員には「倫理審査委員会の設置者の所属機関に所属しない者が複数含まれていること」とされていることから、2人目の外部委員として、札幌医科大学保健医療学部作業療法学科教授の今井富裕氏に委嘱し、人を対象とし介入を伴う医学系研究の倫理審査を扱う特別審査部門を設置した（平成27年度中には、特別審査部門の開催は0回）。

6) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成27年度に11回開催し、共通教育、デザイン・看護両学部の連携教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即した事項について審議した。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭、チューター制度に関すること等について審議したほか、年度計画に対応した取り組みとしては、共通教育科目の効果検証、授業評価アンケートの見直し、成績評価状況の確認等を行った。また、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を報告し、両学部の情報を共有した。

7) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成27年度に9回開催し、デザイン・看護学両研究科の連携教育に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即した事項について審議した。

具体的には、研究科連携科目である連携プロジェクト演習の効果検証、日本学生支援機構奨学金返還免除者の選考基準の策定、院生研究支援費、チューター制度等に関する事項について審議した。



構成員名簿

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	経営会議	◎蓮見 孝 中村 恵子 大古 聡	理事長 副学長 兼 看護学研究科長 事務局長
	部局長会議	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 上遠野 敏 山本 勝則 大古 聡	理事長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	学外連携企画会議	◎蓮見 孝 上遠野 敏 山本 勝則 大古 聡	理事長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	教育・研究企画会議	◎中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長
	広報室	◎蓮見 孝 齋藤 利明 安齋 利典 スーディ神崎 和代 守村 洋 福田 大年 神島 滋子 吉田 雅博	理事長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 事務局次長 兼 経営企画課長
	人事委員会	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長
	キャンパス・ハラスメント防止委員会	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長
	地域連携研究センター	◎上遠野 敏 石井 雅博 原 俊彦 矢部 和夫 小田 和美 松浦 和代	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	地域連携研究センター	張 浦華 菊地 ひろみ 松村 真澄 石田 勝也 松井 美穂 三谷 篤史 田中 広美 藤井 瑞恵 金子 晋也 坂東 奈穂美 飯塚 和恵 上田 理子	デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 デザイン学部助教 看護学部助教 桑園事務室長 兼 調整担当部長 事務局地域連携課長
	図書館	◎山本 勝則 矢部 和夫 定廣 和香子 張 浦華 町田 佳世子 松永 康佑 櫻井 繭子 原井 美佳 上田 理子	附属図書館長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局地域連携課長
	教育支援プロジェクトセンター	◎蓮見 孝 中村 恵子 中原 宏 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部教授 事務局長
	アドミッションセンター	◎酒井 正幸 樋之津 淳子 宮崎 みち子 石井 雅博 羽深 久夫 斉藤 雅也 上村 浩太 杉本 達應 工藤 京子 矢野 祐美子 丞野 直樹 布廣 成規	デザイン学部長 看護学部長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	キャリア支援センター	酒井 正幸 ◎樋之津 淳子 石井 雅博 スーディ神崎 和代 飯塚 和恵	デザイン学部長 看護学部長 デザイン学部教授 看護学部教授 桑園事務室長 兼 調整担当部長
学内委員会	常置委員会 自己点検・評価委員会	◎中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長

区分	委員会等	委員・構成員		
		教職員名	所属・職位等	
学 内 委 員 会	常 置 委 員 会	自己点検・評価委員会	吉田 和夫 松浦 和代 吉田 雅博	デザイン学部教授 看護学部教授 事務局次長 兼 経営企画課長
		教員評価委員会	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 宮崎 みち子 矢部 和夫 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 事務局長
		総務委員会	吉田 恵介 河原田 まり子 杉本 達應 三谷 篤史 三上 智子 山内 まゆみ ◎大古 聡	デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局長
		FD委員会	◎上遠野 敏 中原 宏 川村 三希子 山田 良 貝谷 敏子 清水 光子 大淵 一博 檜山 明子 烝野 直樹 布廣 成規	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 看護学部助教 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		倫理委員会	◎山本 勝則 石崎 友紀 猪股 千代子 武田 亘明 大野 夏代 菅原 美樹 片山 めぐみ 上田 理子	附属図書館長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 事務局地域連携課長
連絡調整会議	学部間	教務・学生連絡会議	◎酒井 正幸 樋之津 淳子 羽深 久夫 原 俊彦 細谷 多聞 河原田 まり子 川村 三希子 烝野 直樹 布廣 成規	デザイン学部長 看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
連絡調整会議	研究科間	研究科教務・学生連絡会議	中村 恵子	副学長 兼 看護学研究科長
			◎城間 祥之	デザイン研究科長
			中原 宏	デザイン学部教授
			猪股 千代子	看護学部教授
			丞野 直樹	事務局学生課長
			布廣 成規	事務局桑園担当課長
衛生委員会		芸術の森地区衛生委員会	町田 佳世子	デザイン学部教授
			武田 亘明	デザイン学部准教授
			金子 晋也	デザイン学部助教
			◎吉田 雅博	事務局次長 兼 経営企画課長
		桑園地区衛生委員会	清水 光子	看護学部准教授
			近藤 圭子	看護学部助教
			田仲 里江	看護学部助教
			◎飯塚 和恵	桑園事務室長 兼 調整担当部長
学部委員	デザイン学部	教務委員会	◎細谷 多聞	デザイン学部教授
			町田 佳世子	デザイン学部教授
			柿山 浩一郎	デザイン学部准教授
			山田 良	デザイン学部准教授
			大淵 一博	デザイン学部講師
			金子 晋也	デザイン学部助教
			須之内 元洋	デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎羽深 久夫	デザイン学部教授
			上田 裕文	デザイン学部講師
			片山 めぐみ	デザイン学部講師
			小宮 加容子	デザイン学部講師
			杉本 達應	デザイン学部講師
			福田 大年	デザイン学部講師
			松井 美穂	デザイン学部講師
		キャリア支援委員会	◎石井 雅博	デザイン学部教授
			安齋 利典	デザイン学部教授
			斉藤 雅也	デザイン学部准教授
			石田 勝也	デザイン学部講師
			上田 裕文	デザイン学部講師
			小宮 加容子	デザイン学部講師
			福田 大年	デザイン学部講師
			松永 康佑	デザイン学部講師
看護学部	看護学部	教務委員会	◎河原田 まり子	看護学部教授
			定廣 和香子	看護学部教授
			上村 浩太	看護学部准教授
			古都 昌子	看護学部准教授
			守村 洋	看護学部准教授
			神島 滋子	看護学部講師
			原井 美佳	看護学部講師
			矢野 祐美子	看護学部講師
			山本 真由美	看護学部講師
			柏倉 大作	看護学部助教



区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学部 看護 委員会	教務委員会	坂東 奈穂美 星 幸江 御厩 美登里	看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
	学生支援委員会	◎川村 三希子 小田 和美 菊地 ひろみ 清水 光子 渡邊 由加利 工藤 京子 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 近藤 圭子 田仲 里江	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教
	キャリア支援委員会	◎スーディ神崎 和代 貝谷 敏子 松村 真澄 櫻井 繭子 田中 広美 藤井 瑞恵 三上 智子 横川 亜希子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助手
研究科 デザイン 委員会	教務・学生支援委員会	◎中原 宏 安齋 利典 石井 雅博 羽深 久夫 細谷 多聞 町田 佳世子 矢部 和夫 柿山 浩一郎 斉藤 雅也	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授
	研究科倫理審査会	◎石崎 友紀 原 俊彦 片山 めぐみ 飯塚 和恵	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 桑園事務室長 兼 調整担当部長
研究科 看護学 委員会	教務・学生支援委員会	◎猪股 千代子 大野 夏代 菅原 美樹 古都 昌子 山内 まゆみ	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師
	研究科倫理審査会	◎定廣 和香子 猪股 千代子 村松 真澄 飯塚 和恵	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 桑園事務室長 兼 調整担当部長

◎印：所管部局長等

13 FD・SD活動

FD活動 年間活動概要

(単位：名)

全学FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
5月27日	FD/ SD	知的財産権について 研究成果や作品を守る為に 商標権と著作権を中心に（知財セミナー） （知的財産アドバイザー 丞村宏氏）	桑園:講義室1 芸森:C201 ※遠隔で芸森へ配信	19
6月12日① 7月13日②	FD	他学部授業参観（デザイン学部開講科目） （①城間祥之教授、②福田大年講師）	①芸森:コンテンツ3年 アトリエ ②芸森:常盤児童会館	2
7月29日	FD/ SD	利益相反マネジメントの目的と必要性について （東京医科歯科大学産学連携研究センター教授 飯田香緒里氏）	桑園:講義室1 芸森:C201 ※遠隔で芸森へ配信	37
8月6日	FD/ SD	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（研究倫理に関わるFD） （北海道大学大学院医学研究科社会医学講座公衆衛生学分野教授 玉腰暁子氏）	桑園:講義室1 芸森:C201 ※遠隔で芸森へ配信	58
8月25日	FD	2015年度札幌市立大学研究交流会 （各教員が研究成果を発表）	桑園キャンパス	86
9月15日	FD	教育活動の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザインの基本 （熊本大学教授 鈴木克明氏）	桑園:講義室5	35
9月25日	FD/ SD	地域間連携による、多世代共創コミュニティづくり （シェア奥沢について） （多摩美術大学教授 堀内正弘氏（シェア奥沢代表））	COC:まちの講堂	11
①10月14日 ②10月23日	FD	他学部授業参観（看護学部 後期開講科目） （①定廣和香子教授、②守村洋准教授）	①桑園:講義室2 ②桑園:体育館	5
1月14日	FD/ SD	知的財産出前セミナー「先生、勝手にかえないでください」と言われない様に ー学生創作物の権利化を尊重する為にはー （知的財産アドバイザー 丞村宏氏）	芸森:B棟ゼミ室	3
3月11日	FD/ SD	知的財産出前セミナー （知的財産アドバイザー 丞村宏氏） ①北見工科大学事件から学ぶ事「法人著作」 受託研究は誰が書いた事になるのか？ ②「STAP細胞あります」から学ぶ事 「適切な引用」とは 他人の論文から引用する場合の注意点	桑園:講義室4	16



(単位：名)

デザイン学部・研究科 FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
4月6日	FD/ SD	TAの心構えとTA受け入れについて （城間祥之教授）	芸森:レクチャールーム	6
①9月25日 ②10月2日	FD	TAの心構えとTA受け入れについて （城間祥之教授）	芸森:レクチャールーム	4
10月21日	FD	メンタルヘル스에配慮した学生指導 （山本勝則教授）	芸森:大講義室	33

(単位：名)

看護学部・研究科 FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
7月1日	FD	看護学研究科倫理審査会における研究倫理審査の概 要と今後の課題 （定廣和香子教授（看護学研究科倫理審査会長））	桑園:講義室1	51
12月16日	FD	模擬患者と教員の協働について考える （上村准教授、古都准教授、守村准教授、藤井講 師、原井講師、山本講師）	桑園:大会議室	28
3月8日	FD	模擬患者と教員の協働～これからの課題とその解決 策を共に考える （教務委員会SP班 坂東 奈穂美助教・上村浩太准 教授、模擬患者 長谷川峻氏、卒業生1名）	桑園:講義室5	59
3月15日	FD	「卒研研究倫理を審査しよう」—2015卒研倫理審 査の検討事項の整理に基づくワークショップ— （菊地ひろみ准教授）	桑園:講義室4、共同研 究室	27



(単位：名)

SD	研修名	形態	受講者数
5月14日	新任管理者研修 ～業務・風土改革のための革新型リーダーシップ研修～	外部	1
5月19日	クレーム電話対応セミナー	外部	1
7月14日	事例から学ぶクレーム対応基礎研修 ～クレームは期待のメッセージ～	外部	1
12月10日	ロジカルプレゼンテーションセミナー ～意見や主張をわかりやすく伝える～	外部	1
6月17日	タイムマネジメントセミナー 従来業務と新規業務を両立する	外部	1
10月6日	ロジカルシンキング強化セッション 職員の役割を論理的に考える	外部	1
7月30日	自立型社員養成研修	外部	1
7月4日	第8回若手職員研修会	外部	2
10月31日	大学行政管理学会 第41回北海道地区研究会	外部	1
1月7日	第1回 札幌市政策企画部との合同勉強会	外部	5
2月3日	第2回 札幌市政策企画部との合同勉強会	外部	5